

# 丸山湿原群保全の会会報

(第 223 号)

発行日：2026 年 (R8) 2 月 17 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会  
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788

090 - 1895 - 8061 (今住)

E-mail:[maruyamashitugengun@gmail.com](mailto:maruyamashitugengun@gmail.com)

## 戦争は最大の環境破壊と、差別を生み出します

「ポピュリズム」最近よく聞く言葉です。政治の世界の言葉ですが「大衆迎合主義」「反体制、反エリート主義」ともいわれます。政治をわかりやすくするには便利。赤か白か？正義か悪か。二言論的な発想。でも本当にいいのでしょうか？多様性の時代ともいわれますが、その多様性を否定する考え方？本来、日本人は曖昧な社会や思想の中で、互いを思いやる気持ちや助け合いの精神を培ってきたのではないか？ひどいことを言ってもどこかで助け合う精神が根底に。

確かに、進むスピードが遅く何も決められないのも困ります。しかし、「大衆」とは誰なんでしょう？「迎合」と言いながら実は…どんな未来が待っているのか？と少なからず心配します。

今回の選挙は「消費税減税」が分かりやすいテーマでした。しかもこの政党もほぼ同じ（「みらい」のみ違うか？）。じゃ～大きい政党が有利で実現可能と判断する。今のアメリカと同じか？アメリカの大衆は今どんな暮らしをしているのでしょうか。「とっても幸せ」と言ってる人が多い？取り残されたいわゆるマイノリティの人々が「良くなった」と感じているのでしょうか。SNS が広まって何が真実か判断できない社会構造になっているようです。

ここからは「自然保護」の立場から。今回の選挙でもやはり「環境問題」はひと言も聞こえない。「お金」のみ。「環境」は生きるためのベース。ないがしろにするといつか（まさしく未来）しゃべ返しが来る。しかし、大衆が「お金」を求めているのも事実なのか…

(今住 2 月 15 日作成)

## 定期活動 ★1 月 25 日 (日) 雪で中止やけど作業 第 1 湿原刈り取り 2 名で作業

前日まで雪はたいしたことが無い、とたかをとくくっていました。ところが朝 7 時ごろから雪が深々と降り続け積雪。あわてて 8 時過ぎに中止のメールを送るも、そこはそれアクセスの悪い丸山湿原。(自虐的?) 阪急バス(旧西谷バス)の本数も少ない。しかも日曜。活動時間に間に合うように来る



こんなにここは雪景色

には相当早い出発の方も。「もう武田尾」と連絡がありました。「やりましょか?」「頑張ったらできますよ」と駐車場へ。向かう途中また別の方からも連絡が入る。「宝塚の平野部はカラッと晴れとった」「寒いし危険なので私は帰ります」と。申し訳ない! お気をつけてお帰り下さい。広い道は積雪も無く問題ないのですが、「西谷の森公園」から奥の道は風の通り道。影の場所も多く雪国のよう。あくまで写真は「切り取った画像」です。



既にお待ちかね 駐車場 にて

駐車場ではすでに1名（バスの方）がスタンバイ。「途中足跡も無かったので誰も来てないと思



雪の降りしきる中やる気満々！

いました。」「雪の丸山湿原も久しぶりやし」なかなか雪のときは行かないものね。で、各自刈払い機を担いで湿原へ。残念？なことに湿原は思ったほど雪がなく、例の茶色い風景が広がっていました。しかし寒さは厳しく凍ててガリガリ。かえって刈り払い機は使いやすい？「2人やし草集めは適当に…」東側のササを中心に刈り取り。先がシカに食われて飛んではいるものの、高さは1m以上。ここ数年手を入れてない部分です。太く硬いので結構手強い。パワーのない（排気量の小さい）刈り払い機では相当テクニックがいるかも。ま〜作業が出来ても出来なくても「中止」ですから問題なし。なんか変？



寒さのおかげ？意外にはかどる



凍てついた千刈ダム（登録有形文化財）

雪の降る中ガソリン一杯分の作業を終え終了。結構はかどりました。片付けは小学校の作業学習に任せましょう。茨が入ってるから気を付けてもらわないと。それと前回積み上げた又マガヤは濡れて？湿って？かペシャリと嵩（かさ）が無くなっていました。これもま〜よろしい。

駐車場に戻り「武田尾まで送りますでしょうか？」の問いに。「久しぶりに千刈からJR道場に抜けて帰ります」と。「ヒエー！」足を滑らせたり遭難だけはお気を付けください。念のため夕方安否確認を致しました。「降りしきる雪を楽しんで帰りました」「無事」と千刈ダムの写真とともに返信がありました。猛者です。羽束川、千刈ダムの斜面も凍っています…。楽しみ方の上手な方だといつも感心します。ただ、ダムからのルートには「山の友ここに眠る」だったか、そんなプレート（墓標？）があったような…。皆さんお気を付けください。

### 西谷小学校環境学習 ★作業学習と蟻地獄 2月3日（火） 17名（スタッフ・教師含む）

この日も朝、急に雪。うっすらと地面が白くなりました。「中止」の言葉がよぎりますが…。連絡無し。ジャンボタクシーでやってきた児童を迎えます。まずは「アイスブレイキング」。とい



雪の載ったササをかき分けどこへ行く

ても独りよがりのギャグでスタッフの紹介と大声を出す練習。いつもの「たすけて〜！」ね。スタッフは草集め（作業）を考え6名の参加。教師2名。児童は3年4年合わせて10名。ほぼマンツーマンの対応。「贅沢やがな〜」と思っているのは私だけか？どちらかといえばお相手してもらっているのかも。早速湿原へ向かいます。が…思いつきで駐車場から入ったところの「湿原もどき」へ。雪の載ったササをかき分け開けた所へ侵入。不思議な空間です。ここはギフチョウの幼虫の食草「ヒメカンアオイ」

がたくさんあるところですが、しかしほとんど植物が生えていない。なぜ？いろいろな意見は出ましたが、「シカの食い荒らし」が原因と思われる。ヒサカキ（緋櫛）も食べられている？背の低いヒサカキの葉がかじられ地面に落ちています。冬の定番は「ササの先」と思っていたのですがヒサカキも結構好んで食べるらしい。と説明しても面白くない。（説明したかな～？）とにかくシカが今とても増えて困っているとは言ったような…。



（参考）かじられ葉が落ちたヒサカキ

通常のルートに戻り第1湿原へ。始める前に事前に聞いていた丸山湿原質問コーナー。総合の時間に「丸山湿原パンフレット（仮名）」なるものを作っているような。とても素晴らしい児童たちです。丸山湿原の分からないことや、深～い内容を聞きたいと。「作業時間が無くなるので困ります」と強く拒否をしたのですが「じゃ～作業手伝いません」と脅され泣く泣く了承。（大きな嘘あり）質問は次から次と…「食虫植物の種類は？」「両生類の…」とか。いちばん驚いた



とりあえず一休み ふかふか？や

のが、5月に座学で「覚えたら凄い！」と伝えた「菌従属栄養植物」。「種類は？」の質問。ちゃんと年度末まで覚えているんです。マニアックですが、日本の研究が世界のトップランナーになっている分野です。大人もほとんど知りませんが…。そこで「適当な答え」をしてはいけないと肝に銘じました。いつも至極真剣に答えてますのでご安心を。ただ間違いに気づかず答えていたり、新しい答えが出ていたりするのでなんでも信じるのは危険。自分で調べ直し、最も正しいと思う答えを導き出してほしいものです。

先生からも「食虫植物とかは丸山湿原にしかないのですか？」の質問が。これも大切なこと。以前にも書きましたが、丸山湿原にいるような食虫植物や「絶滅危惧種」といわれる希少な動植物は、西谷の身近な場所に今も暮らしている。これを意識してほしい。「環境」が似た場所には同じような生き物が生活している可能性が高い。そのためには知ること。「丸山湿原パンフレット作り」は知るための大切な作業です。知らないがために知らない間に消えていく。うん？どこかで聞いたフレーズです。「貧栄養」の話も出ました。これもなかなか理解しにくく奥が深い。

さて作業です。「貧栄養」のための作業。ガイドの大人は見てるだけ…ではなく児童以上に働きます。特に先日刈った「ササ」、硬いので大人中心で頑張りました。ヌマガヤ（沼茅）は任せた。働く働く。いや～毎年、この子たちが来なければどうなるやら状態です。助かりました。今年も「お金ちょうだい」と。正しい意見だと思います。「善意」だけでは守れない。しかし「学習」。便利な言葉です。やはり大人は信用できないか？ま～その後ヌマガヤハウス、ヌマガヤリビングで休憩。ニホンアカガエル（日本赤蛙）の卵



立派な労働力！ いえいえ学習です…



ヌマガヤハウス？リビング？

塊も見たな。帰りは、泣く子も黙る蟻地獄へ。高い所が苦手な子にとっては恐怖！申し訳なかった！が、チャレンジャーは行く行く。奈落の底へ。この日は節分。鬼が底から砂を投げかけているようでした。写真だけを見ているとたいしたことがないように見えますが、おそらく30度を超える傾斜！冬季オリンピックのモーグルの斜面と同じぐらいです。(最大斜度37度) 恐ろしや恐ろしや…。連続するズリ(はげ山)を渡り歩き、丸山周辺の標高が少し低くなったのではないかと心配になりました。このコース、実は保育園児にも提供。トライできるようになったのは、昨年度の4年生のチャレンジがあったことです。ありがたいやら、迷惑やら…。しかしズリ遊びは楽しいんです。ぜひ大人も挑戦してください。足腰の鍛錬にもなります。ただし怪我をしなかったら話ですが…。お疲れさまでした。また来てください。保育園の活動については「地獄編」と題し次回に。



「ひえー！」登っても登っても上がれない

**定期活動** ★2月14日(土) 定期基礎調査 作業 第3湿原刈り取り 7名の参加

目的	市内	市外	場所	時間	【水温】	電気伝導 (EC)	PH
丸山	120	20	入口	10:00			
ハイキング・登山	40	67	第3湿原	10:28	【6.6】	32.7 $\mu$ S/cm	6.5
散歩	1	11	視点場	10:59	【12.4】	28.8 $\mu$ S/cm	5.4
来場者数計 259人 (竹筒ポスト集計)			第1湿原	11:59	【4.6】	31.8 $\mu$ S/cm	5.8
			第2湿原	10:42	【3.3】	34.8 $\mu$ S/cm	6.8

PH計を新調。納得の数値になりました。しか～し今度は気温計を忘れる始末。今回は水温のみの記載となりました。やはり水は少なく、視点場付近では水位がほぼ無し。陽にあたり停滞した水は温度が高くなったと思われます。少々の雪では雨量は変わりません。宝塚の水源でもある川下川ダムにも流れ込む水。ダムの貯水率は41%。(2月10日現在) 過去5年間の水量をはるかに



残ったヌマガヤ類の刈り取り作業

下回っています。湧水とまではいかないようですが今後が心配されます。ただ、最近の湧水や浄水費用の問題から、安定供給のために阪神水道企業団(淀川水系)の比較的安い水をブレンド?されているようです。将来的にはすべて「阪神水道企業団」の水に切り替えるという案も。

生活水が十分あれば心配はないが、「周りの水環境に無関心」になり、リアリティーが無くなる。「日照りのときは涙を流し(宮澤賢治)」のような精神をもう一度見直すことも必要では?

さて作業、基礎調査と同時並行に実施。「もう置いといてもいいか」とブツブツ言っていた第3湿原の残りを刈り取り。やはり「人間の性」、きっちり片付くと気持ちがいい。天気もよく納得して終了しました。ただ心配なのは「両生類の卵」。1月にニホンアカガエルの卵塊1つを確認したのみ。先日の積雪で誘因するかと思ったのですが、セトウチサンショウウオの卵囊は今だ確認できず。他の生息地からの情報も無し。やはり雨がキーワードか?少雨いつまで続くやら…



気持ちよくなりました(人間の性)

次回活動日 2月22日(日) 3月14日(土) 22日(日) 4月11日(土) 26日(日) 愛す会との協働